

神戸市総合基本計画審議会 第3回活力・魅力部会議事要旨

日時： 平成21年11月8日（日）13:00～15:23

場所： 神戸市役所1号館14階大会議室

出席委員：加藤恵正部会長ほか委員24名

【会議要旨】

- ・ 議事に先立ち事務局より、資料2「第2回活力・魅力部会議事要旨」により、前回の議事内容について確認が行われた。
- ・ 加藤部会長から議事次第に従い議事に入る旨発言があり、本日の議題である「活力・魅力部会審議資料」（資料3）について、事務局より順次、説明が行われ、審議された。

（審議内容についての委員意見は以下のとおり。）

（議題1 活力・魅力部会審議資料のうち、1 働く場の確保と人材の育成及び、2 産業の振興による地域社会の活性化のうち（2）暮らしを支える企業の育成に係る委員意見等）

- ・ 派遣問題については雇用する側が雇うかどうか委ねられているところがある。企業は経営上、コストを抑えようとするから、派遣制度がある以上は利用するのはしかたがないが、同じ仕事であれば同じ賃金、報酬を支払う方がよいのではあるが。
- ・ 派遣と正規の賃金格差が話題になっているが、非正規が正社員の給料の半分という極端なことではない。中小企業は労働集約型が多く、昔は親会社との関係で受注保障されていたが、今は製品の価格競争が激しくなってすべて受注できるとは限らない。特に自動車業界などでは入札で契約がとれないと4年間仕事なくなることになりその後の保障ができないので、社員の半分以上は非正規に頼らざるを得ない。社会の仕組みが変わってきたことが事実としてある。
- ・ ワーク・ライフ・バランス、女性の就業環境の整備など最近はそのような言葉で言われているが、企業は昔から雇用確保のために対策を取っている。例えば、女性社員の雇用確保のために社内にスーパーから出向いてもらうといったことも考えてきていた。個別企業の取り組みのほか、制度として支援は必要であるかとも思うので、多いに議論をして働きやすいシステムをつくることは大事。出産後の復帰に向けた企業の取り組みや当事者のブランクに対する意識の差もあり、ギャップに対するきめ細かい制度も必要。
- ・ 製造業はグローバル社会の中で一層過酷なコスト競争にさらされ、労働力は景気循環に左右される。介護・医療など3次産業に力を入れない限り雇用の吸収は困難。神戸には処遇がいい企業や雇用があるといった産業がないと長期的に難しい。他都市で医療・介護などの産業施策を打ち出せばそちらにとられてしまうので早めに介護・医療産業を強化すべき。
- ・ 「安定した雇用の場の確保」と「多様な働きがいのある社会の構築」は非正規の点に注目すれば相矛盾するものである。非正規雇用がすべて悪というわけではなく、モビリティという流動性を高めつつ労働の場で気概を持って働けるような戦略をもっていくことが必要ではないか。
- ・ 女性就業率が神戸は低く、一方で労働力不足であるなら、眠っている女性の労働力を活用したり、介護・看護支援ニーズに対する労働につながる支援も考えるべき。結婚退職後、ハロ

ワークでパソコン講座を受けたが就業支援はなくアフターケアがなかった。働く場の紹介や就業に挑戦する若い人への支援があれば将来の仕事につながる。

- ・ 神戸の女性就業率が低い理由が仮に個人的な介護のためだとすれば、介護施設サービスや他の親も地域で看るなど、「介護」の社会化、社会的企業による解決を図ればどうか。
- ・ 社会的企業は、行政・民間が担えない社会課題を解決する事業主体であるが、「業」として成り立って雇用が吸収できるようなパイを持てるようにすることが大切。ワークシェアリングは仕事の分け合いであるが社会的企業はパイを拡大する。例えば、林業で植えた木が売れる時は孫の世代であるが、それを受け継ぐ人がいないという事例が報道されていたが、まさにそういう視点も必要。
- ・ 雇用の裏側に産業があり社会的企業は1つのジャンル。将来の神戸をめざしてどうするのかという視点が必要。東京は一人勝ちで地方はどこも同じ政策を考えがちである。神戸の産業構造の中で、医療産業やアニメーションなどもあるだろうが、やはり神戸は「港」が強みである。雇用ミスマッチは、マクロか神戸市レベルでみるかどうか市の対応が異なる。労働力には流動性があるので、社会増につながる施策が必要であり、労働力流入につながるような施策が必要である。神戸では神戸の強みをいかしたこの産業を育てていくといった、政策へつなげていく合理的な議論が必要である。ミスマッチに対する職業訓練も大事であるが、本当の働き方のあり方、多様な人々に対応する職の多様性も大事であって、無理してまで例えば介護1分野を職業訓練してもしかたがない。個性をいかした多様な働き方を提供するアプローチが必要である。また、ワーク・ライフ・バランスは、労働の質とライフの質のバランスが重要である。働き甲斐とか、働く意味、生きる力といった人間教育の面がないと、本当の意味での就業意欲にはつながらない、そういった点を重視すべきだと考える。
- ・ 社会的企業は、中間労働市場から通常の労働市場へ入っていけない人、はじき出された人を、いきがいを含めて働くということを考える領域と認識されるが、地域に根ざした神戸固有の働き方が大事になってくるということであろう。

(議題2 活力・魅力部会審議資料のうち、3 先進港神戸と神戸空港に係る委員意見等)

- ・ 神戸港は神戸経済の中心ではあるが、スーパー中枢港は全国に2つでいいと現政権はいつている。今後も西日本のハブ港として莫大なお金を使って、今、整備する必要があるのか疑問。モーダルシフトに努めCO2を減らすなど、環境配慮の方向に転じるべきである。
- ・ 神戸空港の搭乗率7割は、昔は大型機であったが今は小型中型機であり、それを比較すると7割は超えない。また、今年度3億円赤字の予算を組んでおり現実を見て見直すべき。
- ・ 神戸港の衰退は、韓国や台湾など他の港が国家を挙げて活性化に取り組んできたため、自治体レベルでは難しいところもあったが、ポートセールスだけでなく天津や上海長江プロジェクトでビジネス交渉を市も支援し推進するべき。神戸は具体のビジネスの話がでないからおもしろくない、という声も聞く。神戸市でも、極東・ロシアなどに着目して参画してもらいたい。
- ・ 都市の装置として「港」書き込んで欲しい。貨物量、ポートセールスは当然に頑張っていたきたいが、港の位置づけとしては、神戸経済、活力・魅力ある産業をどう貼り付けていくか。貨物、旅客、造船、海運、海事従事者養成など単なる駅でない海事クラスターとする意識が必要。都市空間を活用して市内総生産、雇用を増やすため臨海部についても力を入れて

いただきたい。瀬戸内クルーズも、造船業や集客観光都市としての魅力として、神戸が母港となることで広域集客のコアな港となり、ミニクラスターとなるのでお願いしたい。

- ・ 神戸空港では、関空、伊丹3空港問題について、大阪府知事は関空と神戸といていたが、関空との連携、例えば、関空発着便に神戸空港の国内便の時間を合わせるとか考慮して検討いただくとかが活用のポイントであると思う。
- ・ 日本航空撤退はどうしようもないので空港という資産をもっと評価すべき。景気によってはまた戻ってくるかもしれないが、早朝夜間の増便に務めていただきたい。医療ツーリズムという考えで、中東、ロシア、韓国、中国などからビジネスジェットを利用した患者を受け入れて医療産業に活用すること。そのためにはまず病院が必要であり、需要がどれくらいあるかを現地を良くみて掴んで、例えば中東なら一般市民が補助を受けて海外に医療を求めてやってくる。そういった神戸空港の利用をもっと考えるべきである。
- ・ 空港は貨物をもっと考えればよい。日本全国の特産品を神戸に集めてはどうか。
- ・ 航空会社は赤字だが、ライアンエアは黒字。ローコストキャリアもつぶれるところがあるが、運輸行政の規制は多いがオープンスカイになってくれればかわってくるだろう。
- ・ 空港と港はセットで考えればよい。鮮度の高いものは飛行機、ゆっくりならば船というようにニーズがそれぞれある。時間をコストに換算している。医療産業都市が根付いていけば世界に向けて出て行くものもあるだろうから、セットにして考えていただければよい。
- ・ 先端医療の患者のための空港のバリアフリー強化など新幹線より空港を使いたいと思わせるサービスをつくれればよい。

(議題3 活力・魅力部会審議資料のうち、5知の集積による新たな価値創造に係る委員意見等)

- ・ 医療産業都市構想から11年を経ている。医師会は市民のかかりつけ医集団であるので医療産業都市構想のサポートや意見を言いたい。
 - ①いきなりの苦言であるが、医療荒廃を市民も感じている。メディカルイノベーションシステムは、市民の目線からかけ離れているという印象をもつのでこの場でも議論いただきたい。
 - ②また、医工連携については、医療、介護の現場からのニーズから発せられたものか疑問視されている。産業振興の観点からだけでなく、市民に向けた産官学のアナウンスが必要で、市民の求めるゴールはなにか検証すべき時であると考えます。
 - ③市民向けの情報発信の方向について、市民の合意がなければ説明責任は果たせない。
 - ④関西バイオメディカル構想では、大阪で創薬、神戸は再生医療としていたが、分子イメージングセンターが神戸で動き出してから、創薬を神戸ならやれるのではないかという風潮が強まっている。市民がどう受け止めているか。
 - ⑤新市民病院構想は、中央市民病院が先端医療センターと隣接した新病院、高度専門病院群と一体的になったものであり、スーパー特区に絡む病院も含め、あの地域に1次からスーパー3次医療までが集約されていくものである。ただ、病床数の規制もあり、慣れ親しんだ病院が移転してしまうことが、市民の求めていることなのか。
 - ⑥健康を楽しむまちづくり構想は、市民参加という点で後付された構想で、これが本当に神戸の地場産業の発展に寄与するのであれば良いが、個人認証、個人情報保護の観点から行政がどこまで、個人の健康に踏み込めるのか。いずれも市民の意思、目線から考えてもらいたい。
- ・ メディカルツーリズムに力を入れているのは国民医療が育っていない国で、高度医療を持て

ば神戸も勝てるだろうが、一番重要なのは神戸市民が良い医療を受け入れることであり、医療評価で患者満足度を上げること、長期間の視点で診ることが大事。また、市民にとっては高度な医療が神戸に集中しているのもメリットである。総合病院システムが医療費削減の考え方であるが、インテグレイティブプラクティスユニット（統括的業務手法）、エリア毎に得意な医療が集中すること、満足度の高い医療、長期間の疾病管理、適正な医療費というものが実現できれば、医療費が上がってきても一般の方の理解は得られると思う。

- ・ 先進国では、建設業5%、医療10%の割合であるが神戸はそれに近づいており、その中で医療産業都市構想を考えればよい。産業というところがわかりにくい患者満足度を高めるサービスを提供し、実現するための仕組みとして医師会とともに話し合っながら医療産業都市構想を進める必要がある。
- ・ 医療産業都市、空港、次世代スーパーコンピュータなどのポートアイランド地域は、一部の人だけでなく大衆を引き付ける魅力あるまちづくりの仕掛け方策が必要で、もっと市民に認知をしてもらうことで皆で動いていけるような活気を出すべきである。
- ・ 知の集積ということであれば、島根に市が積極的に集積を図ってきたオープンソースのコミュニティがある。神戸でも地域ICT推進協議会（COPRI）で取り組みを始めている。それを核に、お金のかからない知の集積を図っていきたいと考えている。
- ・ 理研の次世代スーパーコンピュータがすぐに産業化に資するというのは早急である、もう少し未来的なものであり、オープンソース化には不向きではないか。
- ・ 農業分野では1980年代から農産物の遺伝子技術向上のために研究に取り組んできたが何十年もやっているが社会が受け入れないのでいまだにできない。デスバレーのギャップを埋めるには科学者だけでは難しく、農工、医工連携や社会学者などが協力しないと難しい。
- ・ 魔の川、死の谷、その先にはダーウィンの海があり、産業政策上の考えで進めると、人間性が埋没してしまう。
- ・ 次世代スーパーコンピュータに関して、地元中小企業がどう活用できるかが見えてこない。中小企業自らが活用するのは難しいのであれば応用を説明できる人材育成、テクノロジーをいかに産業に導いていけるか技術と経営の両方を理解しているMOT技術経営人材の育成にも力を入れてほしい。
- ・ 医療産業は国がすべきことだと思う。国費含め1300億円をつぎ込んできたが、今後も市費を入れ続けなければならないというのはどうか。
- ・ 一方で、中央市民病院は病床数減になり、救急者の受け入れ拒否も97件もあった。他国では国を挙げて取り組んでいる。次期基本計画では立ち止まって検討すべき。
- ・ 医療産業都市構想は、産業の拠点でいくのか、或いは、家族が来た場合の滞在の場所やメンタルケアのほか、医療法務に強い弁護士などの社会的インフラを組み込み、市内外の患者が来て高度な医療を手軽に受診できるような体制づくりとするのかを、考える時期に来たのだと思う。
- ・ 1300億円のうち976億円が国研究費である。医療産業都市構想は、神戸に優秀な臨床医が集まってくれて環境づくりであり、臨床医に役立つ研究機能を持ってくるということであらう。日本の医療制度の中では、市民病院の臨床医が市民病院だけでは患者ニーズが満足できない。神戸経済の効果としては17年度の単年度で409億程度と推計されている。（事務局）

- ・ 理化学研究所は国事業であり市民理解をどのように得るかが重要である。国事業を自治体事業と一緒にすることであり、市民や患者の団体とも一緒に取り組んでいる。
- ・ 市民への医療提供と国際的な医療ビジネス拠点としての役割の両方があり、世界でも多くない地域経済のモデル都市を目指して、展開を期待したい。
- ・ 信頼を失った社会、神戸市がどう改善するか、すべてをあらわにする必要がある。小学校6年生が社会で活躍する場面を想定してどう提案をしていくかである。現況データだけではなくこうありたいという仮説データも議論には必要である。神戸市がリーダーシップをとってきたように行政のリーダーシップが求められているのでこの会で提案していきたい。
- ・ デザインを科学の連携や横のつながり合わされることも課題である。対象と目的とプログラムをださないと思いつきで終わってしまう。「アジア」も対象を具体化すべき。デザインでも形や表象的なものでなく大学連携により生活スタイルをいかに豊かにするかを検討すべきである。
- ・ 計画は期待と成果が1対1に対応しない、分からないものも多く調整することも大変な作業であるが、多様なものの整理をしていくことが必要。情報の有無で解決できるものできないものもあり、事務局でうまくまとめていっていただきたい。

以上